

絵本は心の栄養



絵本は、幼児や児童にとって情感豊かな心をはぐくむ上で、
欠くことのできない文化財です。

さらに、幼児期・児童期における絵本読書は、
生涯における読書生活を形成する原点を成すものです。

優れた絵本文化の発展と、教育の場や家庭、地域に絵本読書が一層定着することを願い、
1977年に全国学校図書館協議会と幼稚園、保育園などの団体が、
絵本週間推進協議会を構成し、3月27日から4月9日までを「絵本週間」とし、
絵本読書の振興を図っています。

そこで今回は、絵本読書の果たす役割について、
市図書館の取り組みとともに皆さんに紹介します。



絵本読書の大切さ、楽しみ方

読み聞かせの大切さ



絵本の読み聞かせが、なぜ良いのか？

その理由はただ一つ、親子で楽しい時間を過ごすことができるからです。

楽しい時間をたくさん過ごせば、親子のきずなは、より強く結ばれます。お子さんが成長するにつれ、共に過ごす時間が少なくなり、ひよっとすると、遠く離れた所に行ってしまうかもしれません。

しかし、幼いころと一緒に過ごした思い出が、多ければ多いほど、心の距離は近くなります。

そしてまた、親子で過ごした楽しい思い出は、お子さんの心を支える力になります。お子さんの力になる楽しい時間を、いつばいつくってください。絵本であれば、いつでもどこでも、ほんの数分でも、楽しい時間を過ごすことができます。

「読み聞かせをすると頭が良くなる」と聞くから、読んでやりたい、という方もいらっしゃるでしょうが、そういったこと

は、絵本の時間を存分に楽しんでからこそ付いてくるオマケです。

存分に楽しんでいけば、その楽しい世界を生み出している言葉というものに関心を持つようになります。家庭での、日ごろの会話や絵本の読み聞かせを通して、たくさん楽しい言葉、おもしろい言葉、温かな言葉をお子さんにプレゼントすることで、お子さんは、自然と言葉が大好きになるのです。

「これは、なんて読むの？」「このお話を聞いてどう思った？」などと、絵本の時間を教育の手段にしたりせず、心から楽しむ時間、親と子が心を通わせる時間にするのが最も大切です。

誰でも楽しめる絵本



絵本は、赤ちゃんからお年寄りまで、老若男女を問わず、誰でも楽しめます。人と人が出会うのと同じように、いつどこで出会うか分かりませんが、出会いがあれば、いつでも構いません。

「赤ちゃんに絵本なんて早過

ぎる」と思われるかもしれませんが、確かに絵本などなくても、赤ちゃんに愛情を込めて子守唄を歌ったり、話し掛ければよいのですが、「赤ちゃんに、どんな言葉掛けをすればいいのかわからない」というときには、絵本を読んでみましょう。絵本の表紙を開けば、大人は、言葉を発せずにはいられません。赤ちゃんは、視力が発達していても、お父さん、お母さんの声を安心して聞いています。赤ちゃんの耳に、たくさん心地よい言葉を届けるために、絵本は大活躍するでしょう。

絵本の時間を楽しい時間にするために



では、絵本の読み聞かせをする時、どんな絵本を読めばいいのかというと、それは、自分が気に入った本やお子さんが気に入った本です。これが、絵本の時間を楽しい時間にする一番のポイントです。次々と、新しい絵本を読むよりも、お子さんが何度も「読んで」と言って持ってくる、お気に入りの一冊を大

切にしてください。

そして、丁寧に心を込めて読むことも大切です。そんざいに読んでいるとお子さんの気持ちも絵本から離れてしまい、楽しい時間ではなくなります。

また、読み聞かせには、その子にあった時間と場所、適した絵本が必要です。お子さんが嫌がる時は無理に読まず、他の遊びと一緒に楽しみましょう。

絵本選びに困ったら図書館へ！



世の中には、あまりにもたくさんの絵本があり、「お気に入りの一冊」を見つかるのも、なかなか大変なことです。困ったときは、図書館にお尋ねください。おすすめの本のリストを作るなど、絵本選びに役立つ工夫をしています。いろいろな借りてみて、お子さんの「お気に入りの一冊」をぜひ見つけてください。





ブックスタート

図書館では、平成15年度から生まれ初めて出会うにふさわしい絵本のプレゼントを通じて、「抱っこ」の温かさ、心温まるひとときを持ってもらおうと、「ブックスタート」を行っています。



ブックスタートとは

地域に住む、すべての赤ちゃんと保護者に、「絵本」を介して持つ、親子の触れ合いの大切さのメッセージを伝えながら、赤ちゃんの健やかな成長を応援する運動です。

絵本などが入ったブックスタート・パックを手渡し、絵本を通じて、愛情に満ちた「言葉」を語り掛けることで、赤ちゃんは、自分がとても大切にされ、愛されることを知り、喜びを感じます。

赤ちゃんの幸せは、そんな時間の中で芽生え、広がり、はぐまれていくものです。

それは、大人にとっても、心安らぐ子育ての時間になります。

ポイント

●最初のうちは、本を舐める、かじる、放り投げる、ただめぐる、などだと思えます。

それでも構いません。そつやつて、だんだん本と親しんでくると思えます。

●字が読めない赤ちゃんでも、本を見ながら、優しく話し掛けてもらったり、絵についてお話し

してもらったりするのは、とてもうれしいことです。また、大人にとっても楽しいひとときです。

●たくさん話し掛けてあげることで、赤ちゃんのこれからの成長にとって、とても大切です。

●登場人物によって、声を変えた

ブックスタート・パックの内容



- ①絵本2冊
「いないいないばあ」・「あそび」
- ②イラスト・アドバイス集
「あかちゃんのすきなものしててる？」
- ③コットン・バッグ
- ④図書館利用カード交付申請書
- ⑤図書館利用案内
- ⑥お薦めの「赤ちゃん絵本リスト」

り、身ぶり手ぶりを交えながら楽しんでください。

対象者および実施場所

対象者 4カ月児健診を受診される、すべての赤ちゃんとその保護者

実施場所 市保健センター

ブックトーク・読み聞かせ

毎週土曜日、午後2時から、図書館・児童書コーナーで、ボランティアの方々による「ブックトーク・読み聞かせ」が行われています。

ぜひお出掛けください。





図書館職員から「一度は読んでほしい絵本」の紹介 たとえば、こんな本は、いかがですか？

「11ぴきのねこ」

馬場のぼる・作 〈こぐま社〉

腹をすかしたネコたちは、湖にやって来ました。大格闘の末、やっと捕まえた大魚。みんなに見せるまでは食べない、と約束したのに…。

子どもが小さいころ、寝る前にずいぶん読まされました。でも、何度読んでも楽しいです。



「おつかい」

さとうわきこ・作 〈福音館書店〉

「ばばあちゃん」の作者が贈る楽しい絵本。お使いを頼まれた女の子は「もし、あめがふつたら…?」「ふくがぬれちゃう」「あしがぬれちゃう…」と心配ばかり。果たしてお使いは、できるかな？

子どもが小さいころ、よく読みました。親の私の方が楽しんでいました。



「旅の絵本」

安野光雅・作 〈福音館書店〉

文字のない絵本ですが、見知らぬ土地の美しい風景と町並みの絵から、読者に、それぞれの物語が生まれると思います。

作者と一緒に旅をしているような楽しさから、絵に隠れた「遊び」を見つめる楽しさへ進化し続ける絵本です。絵本に関心を持つことになった原点の本です。



「タンチョウは 悪代官か？」

竹田津実・作 あべ弘士・絵 〈偕成社〉

今、話題と人気を独り占めにしている、北海道旭山動物園の飼育係を経てきた絵本作家が贈る「どうぶつさいばん」シリーズです。ヤチウグイが「このままでは、全部タンチョウヅルに食べられてしまう」と訴えてきました。さて、裁判の結果はどうなるでしょうか？

北海道の大自然が画面いっぱいに広がり、動物たちが生き生きと描かれています。中でも、タンチョウヅルが描かれているページは、色使い、構成とも見事なページで見入ります。



お知らせ

図書館の駐車場が増えました

これまで、駐車スペースが少なく、ご迷惑をお掛けしてきましたが、隣接する土岐郵便局跡地を、図書館南駐車場として整備しました。ご利用ください。ただし、図書館の開館時間外は、利用できませんのでご注意ください。

4月から祝日も開館します

4月から、図書館の休館日を次の通りに変更します。祝日も開館しますので、ぜひご利用ください。

4月からの休館日

- ・ 毎週月曜日（祝日および振り替え休日の場合は、開館します）
- ・ 毎月第4金曜日（祝日の場合は、開館します）
- ・ 年末年始（12月28日～1月4日）

開館時間

- ・ 火曜日～金曜日
午前10時～午後7時
- ・ 土・日曜日、祝日、振り替え休日
午前10時～午後5時

詳しくは、図書館 ☎ 1253 へ
どうぞ。